

④ふんわりとした花が見頃を迎えているネムノキ=いずれも辰巳池
⑤梅雨空の下、涼しげにたたずむハンゲショウ



水辺彩るネムノキとハンゲショウ 稲美・辰巳池

水辺の植物ハンゲショウ（半夏生）が梅雨空の下、稲美町野寺の辰巳池で葉を白く染め、涼しげなたたずまいを見せている。同池周囲には、綿毛が伸びたような紅色の花を咲かせるネムノキも見頃を迎えている。

ハンゲショウはドクダミ科の多年草。花が咲く8月にかけて葉の半分ほどがおしろいを塗ったように白く染まることから「半化粧」「片白草」とも呼ばれる。白くなるのは花の受粉を促すのに虫を引き寄せるためとされる。

県のレッドデータブックではCランクに指定さ

れている希少種で、辰巳池の周辺でも数は少ない。草花に詳しい稲美町中村の大路敬子さん(76)は「開発や池の整備などで近年、減ってしまった」と残念がる。

ネムノキは辰巳池の周囲に数本ある。葉は朝日を浴びると開くが、夜には閉じるため名前の由来となった。樹高は6～9m。ふんわりとした花は絹糸のように繊細で、英名では「シルク・ツリー」と呼ばれている。10日ごろまで観賞できる。

(笠原次郎)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 どうしてネムノキという名前になったか書きましょう。

2 ハンゲショウは植物の名前ですが、暦の上での雑節(八十八夜や土用などのような季節を示す目印)の一つです。夏至から11日目頃(7月2日～7日)を指します。半夏生までに終わること、半夏生に食べるものを調べて書きましょう。

1

2

終わること

食べるもの

NIEワークシートのこたえ（2023年7月5日公開）

◆ワークシート「ネムノキと半夏生」 2023.7.4付朝刊 東播 解答

1 夜に葉が閉じるから(同意可)

2 終わること 田植え

食べるもの たこ うどん 小麦餅 焼きサバなど